



第35回日本レーザー医学会総会

会長 : 帝京大学・皮膚科 渡辺晋一 教授

第35回総会のテーマは「エビデンスに基づいたレーザー医学」です。もともとレーザー治療はレーザーメスとして発展したもので、止血が容易というメリット以外に、通常のメスでは手が届きにくい部位の手術が可能という利点を有していました。ところが皮膚科領域ではレーザー治療により瘢痕をきたすため、むしろ有害と考えられていました。しかし1983年にselective photothermolysis (SP)という治療指針が発表されました。私はちょうどこの時期にハーバード大学に留学し、R Rox Anderson教授(当時は皮膚科レジデント)らとSPがアザの治療に極めて有用であることを証明しました。その後SPに基づいた治療は爆発的に普及し、今や世界のレーザー医学会はほとんどが皮膚科関連の演題となっています。しかし最近はエビデンスがない治療も増えています。私は日本レーザー医学会で最初の皮膚科出身の大会長を拝命しましたので、最近のレーザー治療のエビデンスを明らかにしたいと思います。

(渡辺教授の文章そのまま)